

# 令和6年 稲作情報 第5号

令和6年7月11日発行 宮城県亘理農業改良普及センター

電話 0223(34)1141 FAX0223(34)1143 ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>

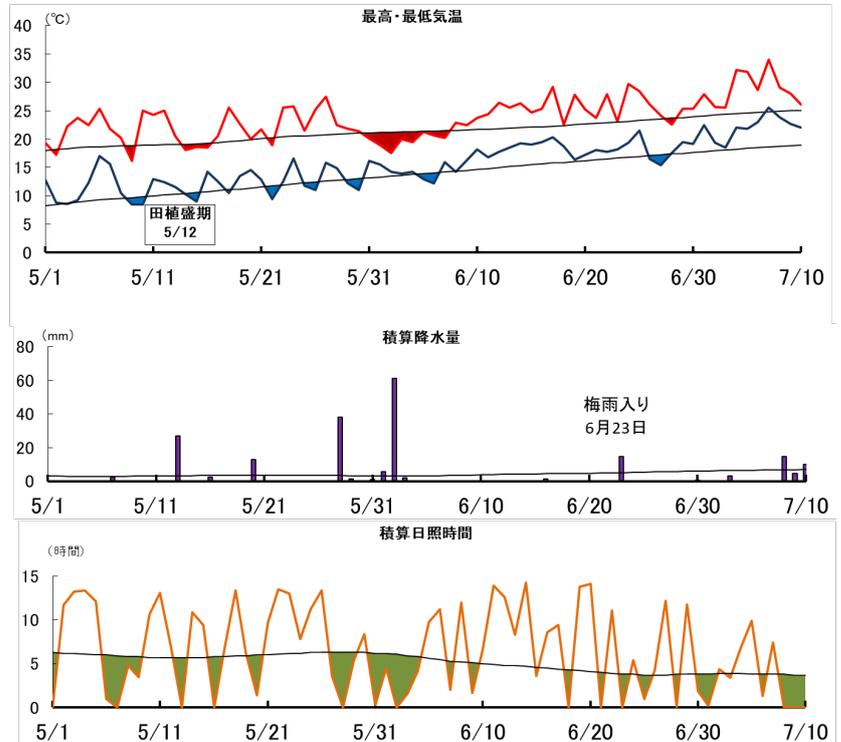
## 【気象経過】

(7月)

7月上旬の平均気温は 25.5℃ (平年差 +4.2℃)、日照時間は 33.4 時間 (平年比 88%) と高温・寡照で経過しました。

積算降水量は 32 mm (平年比 49%) でした。

観測地点：亘理アメダス



## 【移植栽培】

### 1 生育状況

7月10日調査では、1㎡当たり茎数は、幼穂形成期の目標茎数をほぼ確保しています。幼穂長は「ひとめぼれ」で4~8mm、「だて正夢」で20mm、「つや姫」で0.8mm確認され、中生品種では、幼穂形成期終期に達しているところもあります。

NO	品種	調査地点	田植月日	栽植密度 (株/㎡)	7月10日調査					
					草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)	
1	ひとめぼれ	名取市	本年値	5月16日	18.4	65.5	453	11.9	42.0	7.3
			平年比	(2日早い)	—	108%	91%	0.7	0.2	6.5
2	ひとめぼれ	山元町	本年値	5月15日	19.6	65.1	570	11.2	42.8	4.1
			平年比	(4日早い)	—	99%	111%	0.5	-1.8	3.5
2	ひとめぼれ	2ほ場平均	本年値	5月16日	19.0	65.3	512	11.6	42.4	5.7
			平年比	(3日早い)	—	103%	102%	0.6	-0.8	5.0
3	つや姫	岩沼市	本年値	5月15日	16.3	67.6	445	11.5	40.7	0.8
			平年比	—	—	—	—	—	—	—
4	だて正夢	亘理町	本年値	5月6日	14.9	76.2	414	11.0	39.9	20.2
			平年比	(1日早い)	—	100%	83%	-0.1	-1.1	18.3

平年値は、NO. 1、2及び4は、同一ほ場で過去5か年の平均値。

NO. 3は、今年度から調査のため、平年値なし。

### 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

发育過程		出穂前日数	幼穂長	葉耳間長
幼穂形成期	始期	25日前	1~2mm	—
	終期	23日前	3mm	
減数分裂期	始期	15日前	3~4cm	-10cm
	終期	10日前	8~10cm	±0cm

## 2 今後の管理

### (1) 生育ステージの予測

アメダスの気温を用いた予測では、仙台湾沿岸の田植時期（5月10日）における「ひとめぼれ」の出穂期は7月30日頃です。

今後、高温で推移した場合は、出穂期がさらに早まる可能性があります。

アメダスの気温を用いた田植時期別ひとめぼれの生育ステージの予測

（県米づくり推進本部、7月8日現在）

県平均	田植時期	幼穂形成期 (出穂 25～20 日前)	出穂期
始期	5月3日	6月27日	7月25日
盛期	5月10日	7月2日	7月30日
終期	5月23日	7月11日	8月6日

※予測は、移植時の葉齢3.1葉を使用（県生育調査ほ・作況試験ほ平均）。品種は「ひとめぼれ」。

7月2日までのアメダス（亶理、名取、仙台、石巻）の実測値と、7月3日以降はアメダス（亶理、名取、仙台、石巻）平均値を使用。

### (2) 水管理

幼穂形成期に達しているほ場が多くなっているため、中干しを終了し、間断かん水で根に酸素と水分を与えましょう。

2週間気象予報（気象庁）では、障害不稔となる「日平均気温20℃以下が長期間続く場合や最低気温が17℃以下となる場合」は発生しない予報になっています。

万が一、低温になる場合は、深水管理で幼穂を守りましょう。

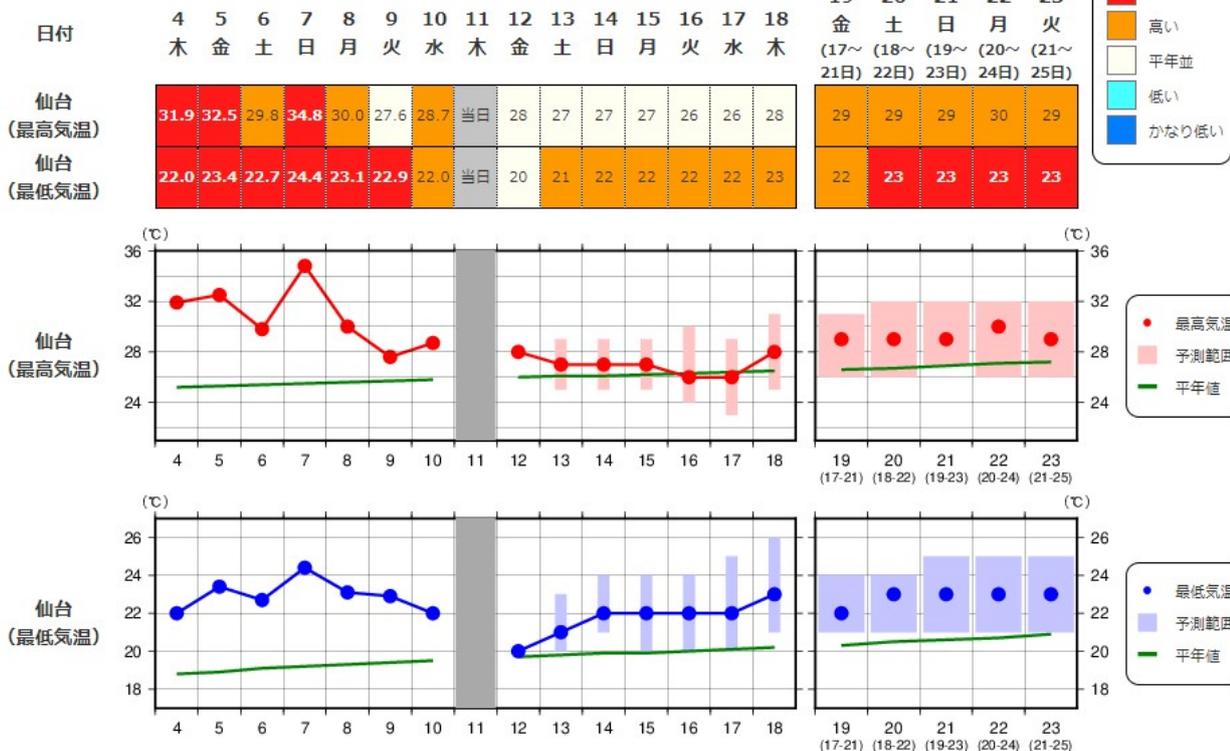
<7月11日 気象庁>

2週間気温予報

過去の実況

1週目の予報（日別）

2週目の予報（5日間平均）



2週間気温予報は仙台管区気象台のホームページを御覧ください。  
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/twoweek/>

### (3) 追肥

古川農業試験場の調査によると、施肥窒素の減少は平年より早く、昨年よりも早くなっていますが、土壌窒素発現量は平年より多くなっていますので、草丈が長い場合は、幼穂形成期追肥を避け、減数分裂期に追肥しましょう。

表1. 品種・生育ステージごとの生育量及び追肥窒素量の目安

品種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm，出穂20～25日前）				減数分裂期（幼穂長30mm，出穂15日前）			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉緑素計値 (群落葉色板値)	追肥窒素量 (kg/10a)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉緑素計値 (群落葉色板値)	追肥窒素量 (kg/10a)
ひとめぼれ	56～59	470～530	38～40 (4.4～4.8)	1.0	66～69	450～500	35～37 (4.0～4.3)	1.0
ササニシキ	62～68	720～760	34～36 (3.8～4.2)	0※ <sup>1</sup>	/	550～580	32～34 (3.5～3.8)	1.0～1.5
つや姫	70～75	550～580	35～37 (4.0～4.3)	2.0				
だて正夢	64～70	390～460	40～42 (4.8～5.1)	0※ <sup>2</sup>	76～82	380～420	37～39 (4.3～4.6)	2.0
金のいぶき	65～70	570～620	33～35 (3.6～4.0)	1.0	83～88	490～540	30～32 (3.2～3.5)	1.0
つきあかり	47～55	370～420	40以上	1.0	75～83	330～350	40以上	2.0

### (4) いもち病対策

＜発生予察情報 7/8 宮城県病害虫防除所＞	
葉いもち	
発生時期	発生量
平年並	平年並
(7月第3半旬：7/11～7/15)	

葉いもちが発生しやすい気象条件（低温・少照・多雨等）が出現しているかどうかは、県病害虫防除所のホームページの葉いもち感染好適条件の出現状況(BLASTAM) (<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>) で確認できます。

いもち病に感染していれば、葉いもち感染好適条件の出現状況(BLASTAM)の好適条件発生の10～14日後にはほ場で病斑が確認され始めますので、ほ場の観察を行いましょう。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除して下さい。

アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM 令和6年度)

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
7/1	—	—	—	●	—	●	—	●	—	—	—	●	—	—	—	●	—	—
7/2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/4	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—	●	●	—	—	—	—	—
7/5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上, 平均気温15～25℃, 前5日間の平均気温20～25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが, 前5日間の平均気温が条件から外れている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
—	好適条件なし	
?	判定不能	

## (5) 紋枯病対策

<発生予察情報 7/8 宮城県病害虫防除所>

紋枯病

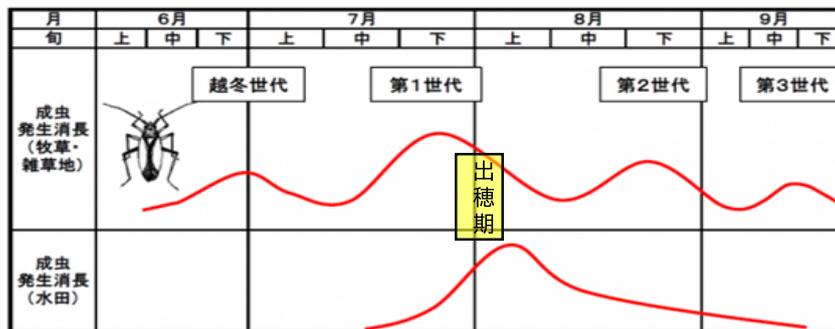
発生時期	発生量
-	やや多

昨年発生したほ場では、本年も発生することが懸念されます。要防除水準（収量が5%以上の減収を想定して防除する場合）は、「ひとめぼれ」で穂ばらみ期の発病株率が18%です。

## (6) 斑点米カメムシ類の防除

イネ科雑草（特にイタリアンライグラス等）の多い畦畔では、斑点米カメムシ類が誘引されて産卵・繁殖する場所となり、斑点米被害につながる可能性が高くなります。計画的に畦畔の除草を行いましょ。

ただし、出穂期前後の草刈りは水田内に斑点米カメムシ類を追い込むこととなりますので、畦畔草刈りは水稻の**出穂 15~10 日前まで**に終了するようにしましょ。ひとめぼれ（5月10日田植）の生育ステージ予測（アメダスの気温活用）によれば、仙台湾沿岸の出穂期は7月30日ですので、**遅くとも7月20日までに草刈りを終了する**ようにしましょ。



※出穂期は8月1日（令和元年～令和5年の亘理普及センター管内平均値）

## 【亘理・名取管内のアカスジカスミカメ発生時期の推定（アメダス（亘理））】

	越冬世代		第1世代		第2世代	
	ふ化	成虫	ふ化	成虫	ふ化	成虫
発生時期	5月8日	6月10日	6月29日	7月17日	8月2日	8月16日

※7月10日までのアメダス（亘理）実測値と7月11日以降はアメダス（亘理）過去5か年（令和元年～令和5年）の平均値を使用。

※予測月日は重久（2004）の報告に基づき算出（卵：発生零点12.1℃，有効積算温度105.7日度，幼虫：発生零点11.9℃，有効積算温度182.1日度，産卵前期間：発生零点15.1℃，有効積算温度59.5日度）。

# 【乾田直播栽培】

## 1 生育状況

7月10日調査の1㎡当たり茎数は、300～600本/㎡となりました。葉色は、移植栽培よりやや淡くなっています。

幼穂長は5～11mm程度となっており、すでに幼穂形成期に達しています。

NO	品種	調査地点		播種月日	栽植密度 (条/m)	苗立数 (本/㎡)	7月10日調査				
							草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
1	ひとめぼれ	名取市	本年値	3月18日	8.3	173.6	71.4	598	11.2	37.7	11.3
2	ひとめぼれ	岩沼市	本年値	4月8日	3.5	105.3	61.5	326	10.8	38.0	4.9

今年度からの調査のため、平年値、前年値なし。

## 2 今後の管理

### (1) 水管理

ほ場は湛水後も十分に固いことから、収穫作業を考慮した中干しは必要ありません。

慢性的な湿田であれば、中干しによる生育改善効果がみられますが、移植栽培に比較して還元の進行も小さいので、稲の生育が停滞するなどの症状がなければ積極的な中干しは必要ありません。

### (2) 葉いもち対策

水面施用剤を防除適期に散布してください。

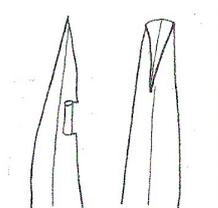
葉いもちが発生しやすい気象条件（低温・少照・多雨等）が出現しているかどうかは、県病害虫防除所のホームページの**葉いもち感染好適条件 の出現状況(BLASTAM)** (<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>) で確認できます。

### (3) 斑点米カメムシ類防除

出穂直前に草刈りをすると水田内にカメムシ類を追い込むこととなりますので、畦畔等の草刈りは7月中旬（水稻出穂10日～15日前）までに実施しましょう。

### (4) イネツトムシ（イチモンジセセリ）

イネツトムシの被害は大きく、防除の対象になるのは8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。



図：若齢幼虫の形成するツト

**農作業中の熱中症に注意しましょう！（農作業中の熱中症による死者数が急増しています）**

高温時の農作業や単独作業を避け、20分おきに休憩・水分補給しましょう。

冷却タオルやファン付きウェアなどの熱中症予防グッズを活用しましょう。